

○ 作品タイトル

斜め上のキミに捧ぐ

○ 著者名

丹治 航

○ あらすじ

副島律（１１）は、ピアノを習っているが、身が入らず、自信もない。渋々練習していると、フルートの旋律が聴こえてくる。それは、同じマンションの斜め上に住む同級生・草笛みき（１１）が奏でていた。みきに憧れながらも、接点を持てずにいた律は、あることを思いつき、実行しようとするのだが…。

○ 概要

ピアノを習う小学生と、同じマンションの斜め上に住むフルートを吹く同級生が、曲を通じ、心を通わす物語。

○ 本編の文字数

4 0 6 1 文字（スペースを含めない）

※ スペースを含めると 4 1 0 2 文字

ペラ換算 3 4 枚

○ 登場人物表

副島 律（1 1）男子小学生

草笛 みき（1 1）女子小学生

副島 奏（4 0）律の母

福添 幸（3 0）ピアノ教室の先生

くみ（1 1）女子小学生

○ 参考

Bach, Johann Sebastian. *Air on the G String*.

○マンション・202号室・リビング（夜）

電子ピアノの演奏音と共に、キッチンで夕食を作る副島奏（40）を、リビングから見る。

電子ピアノを弾く副島律（11）、練習に疲れ、溜息しつつピアノにもたれる。開いた窓の網戸から風が吹き、レースカーテンが翻ると共に、近くからフルートで奏でられる「G線上のアリア」が聞こえてくる。

律、顔を上げ、301号室のある斜め上を見上げる。

奏、手を動かしつつ、

奏「律ー。そろそろできるよー」

と、声をかけるも、反応がなく、顔を上げ、

奏「り……」

と、律を見ると、手を止める。

律、ボーツと斜め上を見上げたまま、フルートの旋律を聴く。

奏「フフッ」

と、手を動かす。

律、フルートが止み、溜息をつくと、楽譜を映していたタブレットをいじる。

奏「律う？」

律「へ？」

奏「ボーッと聴き惚れてないで、律もちゃんと練習しないと。みきちやんと一緒に演奏できないよ？」

律「……んなことしないし……（小声で）できないし……」

奏「ん？ ほらもうできたから。持ってたって」

律「……はい」

と、不貞腐れつつキッチンへ。

「G線上のアリア フルート ピアノ」
で検索した動画サイトを映すタブレット画面、消える。

○同上（朝）

網戸からの朝日に照らされる電子ピアノ

ノとタブレット。

律「行ってきたーす」

奏「行ってらっしゃーい」

○マンション・外観（朝）

202号室から出る律と、ほぼ同時に
301号室から出る草笛みき（11）。

○通学路（朝）

先に行く律と、後方を歩くみき。

くみ「みきみきー！」

くみ（11）、みきに駆け寄る。

みき「あっ、くみちゃんおはよー」

くみ「おはー。あっ、明日だよね？ 音楽発

表会の楽器決め。何やる？」

みき「んー。私は、リコーダーでいいかな」

くみ「えー？ フルートじゃなく？」

みき「選べないじゃんフルートは」

くみ「だよね？ でも先生に言えば――」

みき「言わないって恥ずい」

くみ「えー！ 皆に聴かせたいなー。あのー、
ピアノ教室の先生とのさあ……何だっけ？
ばばあのじいさん超パエリアー！ みたい
な」

みき「バッハの「G線上のアリア」

くみ「それな。そうあのアリア！ めっちゃ

……アリアだったわー」

みき「フフッ。アリアだった？」

くみ「（訛って）アリアアリア。ねえ」

みき「ん？」

くみ「何で、発表会なんてやんのかなー。上

手い人だけでやりや、いいのにさー。みき

みき「みたいにつ」

みき「んなことないし、さみしいと言わな

いでよー」

くみ「えー？ じゃ教えてよ」

みき「えー……？」

くみ「何でやんの？ 発表会」

みき「何で？ んー」

律、考えるような表情に。

みき「わかんないけどさ。繋がるため、かな」

律、困惑するような表情に。

くみ「繋がる？ 何が？ 何と？」

みき「ん？ 人と人が、繋がるため」

律、ハツとするような表情に。

みき「人前って、緊張するじゃん？ 何か、

喋るより、演奏する方が、緊張が、伝わっ

ちやうっていうか。緊張っていう、言葉に

ならないもの？ 本心？ 気持ちが、曲に

乗るっていうか。誤魔化せない、隠せない

っていうか。でも、だからこそ、音楽で皆、

テンション上がった、悲しくなったり、

リラックスしたり、怖くなったり、するの

かなって。音楽が、繋げてるのかなって」

くみ、立ち止まり、

くみ「おおー！」

と、拍手。

律、歩きつつ小さく拍手。

みき「ちよっ、やめ、恥ずいって……！」

くみ「何かよくわかんないけど」

みき「わかんないんかい！」

くみ「でも、伝わってたよー？ エンジョイ

アリアーッ！ って、ね！？ りっちー？」

律「……えっ！？」

と、振り返る。

律を見るみきとくみ。

律を見るみき。

律、慌てて目を反らし、

律「あっ、うん」

と、前を向いて歩き出す。

くみ「ピアノやるのー？ りっちー」

律、前を向いたまま、

律「やっ、やらないよ」

くみ「やらないのー？」

律「自分より、上手い人なんて、いくらでも

いるし」

みき、何か言おうとする。

律「恥ずいよ。鍵盤ハーモニカで、いいかな」

くみ「そっかー。どーしよっかなー私。みき

みきリコーダーなら、私もリコーダーにし

よっかなー？」

律、早歩きで小学校へ。

みき、離れていく律を見る。

くみ「色々教えてねー？ みきせんせっ」

みき「えっ？ いやっ、先生じゃないって」

くみ「いや先生より先生だって」

みき「いや先生より先生って何？」

くみ「……先々生？」

早歩きする暗い表情の律、小学校のチ

ヤイムが鳴る中、朝日が射し、眩しそ

うに顔を歪める。

チャイム、歪んでいく。

○街（夕）

日が傾き、チャイムとカラスの鳴き声

が響く街。

○ピアノ教室前（夕）

律、ピアノ教室に入る。

○ピアノ教室・教室（夕）

律、教室内に入り、

律「こんにちはー」

と、お辞儀。

準備していた福添幸（30）、振り返り、

幸「あら、こんにちはりっちゃん。早いね今日。いつもギリギリなのに」

律「……はい」

幸、不思議そうな顔をしつつ、

幸「ま、やる気がありやよし。始めちゃおか？　ちよつと早いけど」

律「はい」

と、鞆からタブレットを取り出し、持ったまま、ピアノの前へ座る。

幸「ちゃんと練習してきたー？　奏ママに言われてやるようじゃダメなんだよー？」

律「……あのっ！　幸先生」

と、振り返る。

幸「……ん？」

律、タブレットを差し出し、

律「これ、教えてくれませんか？」

幸、タブレットを受け取り、

幸「……ほう。「G線上のアリア」？　これ、

フルートとやるバージョンじゃん」

律「……はい。ピアノのそこ、を……」

幸「どうし……」

と、律を見る。

恥ずかしそうに顔を伏せたままの律。

幸、思い出し、何度も頷く。

顔を伏せたままの律。

幸「よしっ！　じゃあ今日は、特別に、教え

たげる」

律「……本当っ！？」

幸「フツ。いつもこんぐらいやる気があると、

いいんだけどねー？」

律「……すみません」

幸「さっ、やるよっ？」

律「……はいっ！」

○ピアノ教室前（日没前）

律、ピアノ教室を出て、家路へ。

○道（日没前）

興奮冷めやらぬ顔つきで歩く律。
音を確かめるように吹かれるフルートの
音が聞こえてくる。

○（回想）コンサートホール・檀上

フルートを構えるみきと、ピアノの鍵盤に手を置く幸、息を合わせ、「G線
上のアリア」を奏で始める。
楽しそうにフルートを吹くみき。
滑らかにピアノを弾く幸。

○同・座席側

檀上を夢中で見つめる律、まるで鼻歌
を歌うように首を振る。

（回想終わり）

○道（日没前）

ピアノとフルートの「G線上のアリア」
が遠く中、「G線上のアリア」の鼻
歌を歌いつつ、上機嫌に歩く律。

○マンション・202号室・キッチン（夜）

夕食の準備をする奏。

玄関の開く音がし、

律「ただいま」

奏「おかえりー」

律、洗面台へ。

奏「宿題はー？」

律、手を洗いつつ、

律「終わった」

奏、思わず手を止め、

奏「あそう！ 珍しい」

律、リビングへ。

奏「じゃ、忘れる前に、今日のピアノの復習
を……」

と、律を見、手を止める。

○ 同・同・リビング（夜）

律、どこかから人々のざわめきが聞こえてくる中、ピアノの前に座り、瞑想するように目を閉じる。
開いた窓の網戸から風が吹き、レースカーテンが翻ると共に、音を確認めるように吹かれるフルートの音が聞こえてくる。

律の手、ざわめきが静まっていくと共に、鍵盤の上に静かに置かれる。
律、息を吐き、息を合わせるように吸うと共に目を開け、優しくピアノを弾き始める。

奏、息を合わせたかのように同時にフルートの音が合わさり、「G線上のアリア」が奏でられ、驚くも、微笑み、手を動かす。
律、右前へ目を向ける。

○（幻想）コンサートホール・檀上

檀上でフルートを奏でるみきと、ピアノを弾きつつみきを見る律の後ろ姿。微笑む律。

みき、律に目を向ける。

律、驚いて目を見開く。

（幻想終わり）

○マンション・202号室・リビング（夜）

律の手、電流が走ったかのように反射的に鍵盤から離れる。

奏「ん？」

と、手を止め、律を見る。

律、変わらずフルートの旋律が聞こえる中、ゆっくりと両手を両膝に置き、

溜息をつき、肩を落とす。

律を見る奏、手元を見、手を動かす。

律の手、ズボンを握りしめる。

○同上（朝）

網戸からの朝日に照らされるピアノ前

の椅子。

律「行ってきました」

奏「行ってらっしゃい」

○マンション・外観（朝）

202号室から出る律と、ほぼ同時に
301号室から出るみき。

○通学路（朝）

足早に先に行く律と、後方を歩くみきの後ろ姿。

小学校のチャイム。

○同上（夕）

鍵盤ハーモニカのケースを持った律、
チャイムの中、落ち込んだ様子で帰路
に。

○マンション・2階（夕）

律、顔を伏せがちに階段を上り、20

2号室に目を向けると、立ち止まる。
202号室のドアに向かって立つみき、
律に目を向ける。

律、咄嗟に2階と階段を繋ぐ壁の後ろ
に隠れる。

律「（小声で）えっ……！ えっ何で……」

× × ×

（フラッシュ）

202号室前で律を見るみきの目。

× × ×

律「……（小声で）怒ってた……」

と、辛そうに目を閉じ、意を決して立
ち上がろうとすると、音を確かめるよ
うに吹かれるリコーダーの音が聞こえ、
動きを止める。

律、壁から覗き込む。

202号室に背を向け、音を確認終
わるみき、律を見る。

律、何か思いつき、咄嗟に頭を引く。

律の手、慌ててケースから鍵盤ハーモ

ニ力を取り出す。
ホースを咥えた律、壁から覗く。
みき、笑ってしまい、リコーダーから
変な音を出す。
驚いたような表情を見せる律。
みき、気を取り直すようにリコーダー
を構え、真っすぐ前を見る。
律、咄嗟に頭を引く。
律、階段に座り、目を閉じる。
律の手、鍵盤の上に置かれる。
律、息を吐き、息を吸うと共に目を開
ける。
息を吸うみき、リコーダーを吹き、律
と共に「G線上のアリア」を奏で、余
裕たつぷりに前を見る。

○（幻想）コンサートホール・座席側

檀上でリコーダーを吹くみき。

（幻想終わり）

○マンション・2階（夕）

必死に弾く律、徐々に余裕が始め、
前を見る。

○（幻想）コンサートホール・座席側

ステージ手前に、両足を座席側に投げ
出して座り、鍵盤ハーモニカを弾く律。
階段と202号室と同じ距離で離れて、
壇上で演奏するみきと律。

メインタイトル「斜め上のキミに捧ぐ」

弾き終わるみきと律、拍手喝采の中、
お辞儀。

みきと律、互いを見合い、微笑む。

（了）